

大 畑 遺 跡 VII

—平成4年度 国庫補助事業—

1993.3

静岡県袋井市教育委員会

例 言

1. 本書は平成4（1992）年11月より平成5（1993）年3月に、静岡県袋井市岡崎字大畑4756で実施した大畑遺跡（おおばたけいせき）の緊急発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、大畑遺跡内での茶園改植に伴い国および静岡県の補助金を得て袋井市教育委員会が実施した。発掘終了後、現地は天地返しが行われ新しい茶園となる予定である。
3. 発掘調査は、永井義博（袋井市教育委員会）が調査を担当した。
4. 資料整理・報告書作成は永井が早川保子（文化財調査員）の協力を得て実施した。
5. 発掘調査に際して、土地所有者である井波恵雄氏（袋井市岡崎3841）にはたいへんお世話になった。ここに記して感謝したい。
6. 本調査に関する事務は袋井市教育委員会社会教育課職員が行った。
7. 調査資料はすべて袋井市教育委員会が保管している。

目 次

第1章 発掘調査に至る経過	1
第2章 調 査 経 過	2
第3章 調 査 体 制	2
第4章 地理的環境・歴史的環境	4
第5章 調 査 方 法	7
第6章 遺 跡 の 概 要	7
第7章 まとめにかえて	7

第1章 調査にいたる経過

平成3年6月、袋井市岡崎地内に茶園を所有する井波恵雄氏より、新たに購入した隣地の茶畑を「やぶきた茶」に植え替えるため茶園改植を行いたい、どうも大畑遺跡の範囲の中らしいので現地を確認してほしいとの申し出が袋井市教育委員会あてに入った。そこで、袋井市教育委員会では主任学芸員の松井一明を6月29日午後1時に現地に派遣して立会調査したところ、確かに昭和56年に袋井市教育委員会によって発掘調査が実施された地区の東側に隣接し、若干の遺物も畑より採集されるとのことであった。現地で松井は土地所有者の井波氏に、平成4年度に国庫補助事業として発掘調査を行いたいと申し出たところ、井波氏から快く承諾を得ることができた。井波氏の全面的な協力に感謝したい。

発掘調査	調査年度	調査の目的	主な発掘調査関係者(当時)
第Ⅰ次調査	昭和26年(1951)年	遺跡確認のための学術調査 (明治大学考古学研究室)	明治大学教授 後藤守一 助教授 杉原莊介 学生 芹沢長介 大塚初重 岡本 勇 藤枝東高校生徒 向坂頼二 岡田恭順
第Ⅱ次調査	昭和52年(1977)年	概要を知るための学術調査 (静岡大学考古学研究室)	市原壽文(静岡大学) 大谷純仁(袋井市文書委員) 遠藤才文(ヤマハ郷土博覧) 足立順司(ヤマハ郷土博覧) 静岡大学 守屋雅史 佐藤正和
第Ⅲ次調査	昭和53年(1978)年	範囲確認のための学術調査 (静岡大学考古学研究室)	市原壽文(静岡大学) 遠藤才文(ヤマハ郷土博覧) 足立順司(ヤマハ郷土博覧) 静岡大学学生 設楽博巳 守屋雅史 佐藤正和 羽二生保
第Ⅳ次調査	昭和55年(1980)年	総合的・体系的な学術調査	市原壽文(静岡大学) 山下 晃(県文化課) 吉岡伸夫(袋井市教委) 静岡大学研究生 羽二生保 奈良教育大学生 鈴木敏則 袋井市臨時職員 早川保子
第Ⅴ次調査	昭和56年(1981)年	茶園改植のための緊急調査	市原壽文(静岡大学) 山下 晃(県文化課) 永井義博(袋井市教委) 駒沢大学卒業生 山本宏司 静岡大学学生 大庭康時 袋井市臨時職員 早川保子
第Ⅵ次調査	昭和62年(1987)年	畑地灌漑用溜め池設置工事	市原壽文(静岡大学) 羽二生保(県文化課) 永井義博(袋井市教委) 袋井市臨時職員 早川保子
第Ⅶ次調査	平成3年(1992)年	茶園改植のための緊急調査	永井義博(袋井市教委) 袋井市臨時職員早川保子

第1表 大畑遺跡発掘調査の経過

第2章 調査経過

- 平成4年12月10日 発掘調査開始。北区より発掘を始める。遺物は比較的少ない。
- 12月11日 遺物包含層の掘下げ。土器片は出土するが、この段階での遺構確認は難しい。礫を多く含む黒褐色の土がつづく。
- 12月15日 調査区北側に礎群が確認される。感蝕としては、北西から南東にゆるやかに傾斜している谷部に位置し流れ込みの遺物が多いように思われる。
- 12月17日 ビット等の遺構を掘り始める。東側に遺構は少ない傾向がある。
- 12月21日 石鍾、石斧が出土する。
- 12月25日 写真撮影のための清掃作業。
- 12月28日 北区完掘写真の撮影。年末を迎えるため遺跡周辺の管理を確認する。
- 平成5年1月4日 北区実測用水糸張りと一部実測。
- 1月6日 実測作業。レベルの計測。
- 1月13日 南の発掘作業を再開する。包含層より土器片を採集。石鍾や石斧も含まれる。北区よりも若干遺物量は多い。
- 1月19日 遺構確認作業。
- 1月20日 ビット、溝跡の発掘開始。
- 1月22日 南区完了写真の撮影。実測作業の準備。

第3章 調査体制

調査指導機関 静岡県教育委員会文化課

調査実施機関 袋井市教育委員会

教 育 長 浅 井 通 男

社会教育課長 兼 子 春 治

課 長 補 佐 小 粥 保 夫

文化財係長 吉 岡 伸 夫

主任学芸員 永 井 義 博(調査担当者)

主任学芸員 加 藤 理 文

主任学芸員 松 井 一 明

学 芸 員 白 澤 崇

学 芸 員 森 井 雅 彦

調 査 員 早 川 保 子

経 理 事 務 村 田 博 美

現地調査参加者 川島良一 佐藤好孝 高橋巳代子 永田のお江

早川里美 寺田矩江 山本はつ江



第1図 大畑遺跡の位置 (1:50,000)



第2図 平成4年度の調査地 (1:2,500)

第4章 地理的・歴史的環境

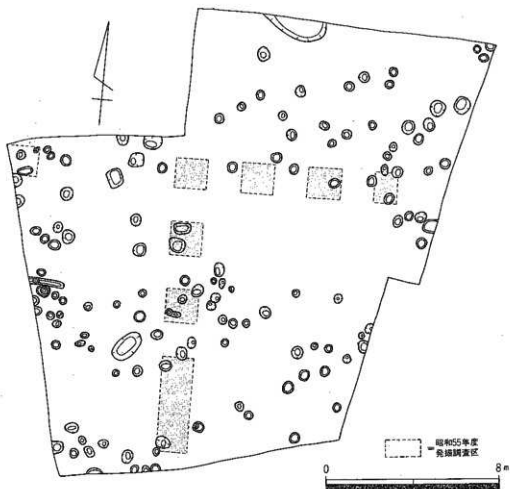
大畑遺跡を太田川河口上空より鳥かんとすると、小笠山から南西にのびた山裾の先端、台地上の小さな窪地に位置している。この窪地はなだらかな南斜面で西側に微高地をもち、この地方独特の西からの強い季節風、いわゆる遠江のからっ風を廻り穏やかな気候をつくりだしている。かつて、汀線が遺跡のすぐ近くまではいりこんできている時は、古磐田海と呼ばれた内湾に突き出した岬の根元の漁業集落的存在を予想させる立地条件である。

大畑遺跡の立地する小笠山丘陵は、小笠神社付近の海拔264mを最高地点とし、尾根と谷が平行して走り、谷の支谷が尾根の中に入り込んで樹枝状の模様をなしている。地質的には、中期更新統の礫・砂・泥（粘土）層からなり、主体をなす部分は河成礫層の間に何層もの淡水なしい内湾或泥層を挟む小笠層群とよばれている。岩種はよく円磨された10cm大の砂岩が圧倒的に多く、太田川、天竜川の岩石とは異なり、はるか東方の大井川にその形成要因を求めなければならない。縄文時代の遺跡の立地条件としては大畑遺跡はかなり恵まれた場所に位置する。いままでの研究を総合すると、次の事が考えられる。（1）遺跡の立地が、平坦な段丘面に位置している。さらに、南向きの緩やかな斜面で太陽の恵みをいっぱいにうけることができる。

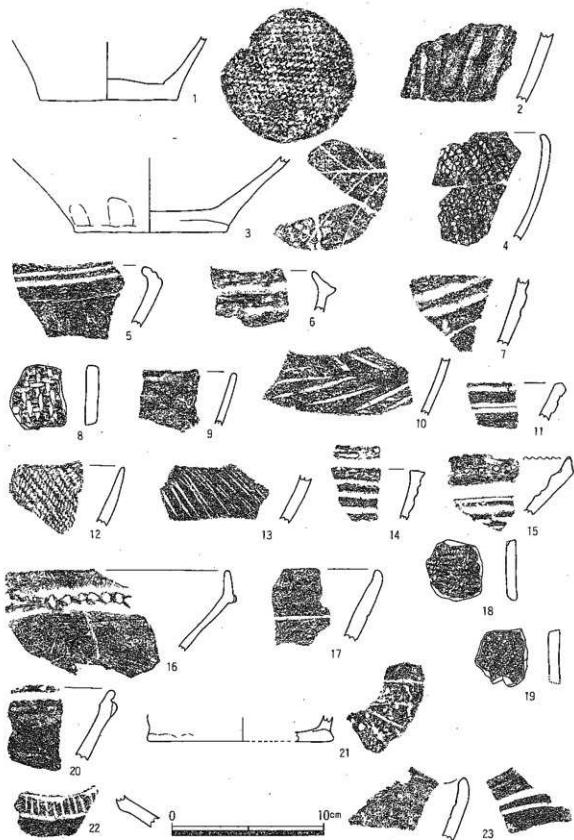
（2）遺跡の背後にある支尾根は、冬期の強い季節風を和らげる働きがある。（3）台地上のため、高燥である。また、礫を多く含む地面のため水はけはよい。さらに遺跡の周囲の小さな谷は、大雨が降った時でも、すばやく排水をする能力を持っている。（4）遺跡の裏である小笠丘陵に狩りにいくのにも、井戸谷の侵食谷に沿って入江に漁っていくのにも至近距離にある。

（5）集落の付近に湧水地がたくさんある。加藤芳朗静岡大学教授の調査では、冬の湛水期である1月上旬の調査において16ヶ所の湛水地・湧水地を確認している。これにくわえて、昭和62年の調査では集落から目と鼻の先で大きな池状の遺構が検出され、いままで地表からの観察では発見できなかった地下の水脈が初めて発掘調査で検出された。

さて、大畑遺跡の周囲には、縄文時代の遺跡はほとんど発見されておらず、袋井市内では約3キロ北西方向にある長者平遺跡が著名である。ここ長者平遺跡は、昭和53年から数次にわたって発掘調査され縄文時代中期の遺物・遺構を出土する遺跡である。大畑遺跡より北東へ約3キロはいった山本遺跡でも、石磯、石匙、石鍾等が表面採集されている。しかし、まだこの遺跡は、発掘調査がおこなわれておらずその性格は不明のままである。その他、袋井市内の縄文時代の遺跡としては、袋井市国本の陣屋北遺跡（前期）、久野山遺跡（中期）、三川の山田原遺跡、大谷原遺跡、豆塚Ⅱ遺跡などがある。このような状況に加えて、大畑遺跡を考える場合に重要になってくるのが古磐田海をはさんで対峙する磐田市貝塚、石原貝塚、見性寺貝塚などの遺跡群、佐鳴湖のほとりに営まれた浜松親塚遺跡、そして、愛知県の三河湾沿岸の縄文貝塚群との比較であろう。



第3図 調査区全体図



第4図 出土遺物実測図(説明は8ページに)

第5章 調査方法

今回の発掘調査は、大畑の茶園の中心域で排土を置くのに適当な場所がないため改植予定地を南北2つの区画にわけて、片方を発掘、片方を排土置き場として調査を行った。排土の移動等は重機を使用した。現地への進入路が狭いため逆に大型重機の使用は不可能であった。作業は茶園の耕作土を除去した後に包含層を3回にわたって掘り下げていったが、層内では遺構を確認することはできなかった。最終的に基盤層直上で検出することのできたビット、土壌について発掘を行った。しかし、どの遺構も状態は不安定で、掘り上げたビットのいくつかは風倒木の跡の可能性もある。なお、2つの調査区の測量図を合成するために共通の基準点を設定しているので報告書に掲載した全体図の北側・南側は別々に測量したものの合成図である。

遺構・遺物の写真撮影については、袋井市所有の中型カメラ（アサヒペンタックス6×7）でフジネオパンS S120フィルムを使用し、補足的に小型カメラ（Nikon F401）でフジクローム36フィルムを使用した。

第6章 遺跡の概要

今回の調査で検出された遺構は土壌とビットが中心である。しかし、これらも第3図のとおりまとまりを見せるものはなく、集落の東南端部分を調査しているという感じを持つことができる。今回の地区のすぐ西側に1980年に調査した時も、薄い遺物包含層はあったが遺構等を検出するまでに至っておらず、大畑遺跡の集落はもう少し全体に西によった水源を中心とした範囲になるであろう。1987年の調査で市道内を調査した13トレンチ西側の池状遺構がその水源となるのであろう。

遺物は包含層よりも耕作土内からより多くの縄文土器破片が出土している。包含層内も小片が多く第4図に示したとおりである。石器としては、打製石斧、石錘、叩き石、石皿、石鏃などが出土しているがわずかである。

第7章 まとめにかえて

今回の調査地は、大畑遺跡の中でも東南の端にあたり、谷状に窪んでいるところで住居跡や落し穴等の遺構は検出されていない。ビットは検出されているが住居跡になるとは確定できない。焼土や貯蔵穴、壁溝の検出もなく櫛列になる可能性も少ない。遺物は耕作土内や薄い包含層内より出土しているが小破片が多く、遺跡の中心部からの流れ込みの可能性が大きい。今回調査した西側の茶園の改植時に発掘調査を行っているが今回と同じようにまとまった遺構は検出されていない。しかし、遺構・遺物があまり出土しないということが大畑遺跡の縄文時代集落の範囲を決定する上で重要であるとも言える。今後の周囲の発掘調査の増加により今回の発掘結果は役立つことになるであろう。

（袋井市教育委員会 永井義博）

大畑遺跡出土遺物実測図一覧表

No.	出土層位	色 調	土 器 の 特 徴	No.	出土層位	色 調	土 器 の 特 徴
1	耕作土下	赤 褐 色	長石を混入。後期前葉。	13	Ⅲ b 層	黒 褐 色	長石を含む。
2	耕作土下	暗赤褐色	長石を混入。後期。	14	Ⅲ b 層	明 褐 色	長石、赤色粒を含む。後期。
3	耕作土下	灰 褐 色	長石を混入。土器底部に木葉跡。	15	Ⅲ b 層	明 褐 色	長石を含む。後期。
4	耕作土下	暗 褐 色	長石を混入。	16	耕作土下	明 褐 色	長石は少ない。後期。
5	耕作土下	暗 褐 色	長石多く、雲母混入。後期。	17	耕作土下	明 褐 色	長石を含む。
6	耕作土下	暗 褐 色	長石を混入。	18	耕作土下	暗 褐 色	長石、雲母を混入。土製内蓋。
7	耕作土下	暗 褐 色	長石、雲母を混入。	19	耕作土下	暗 褐 色	長石は少ない。土製内蓋。
8	耕作土下	暗 褐 色	長石、砂礫を混入。網代跡。	20	耕作土下	灰 褐 色	長石、砂礫を混入。後期。
9	Ⅲ a 層	暗 褐 色	長石を混入。後期。	21	Ⅲ a 層	赤 褐 色	長石を含む。木葉跡。
10	Ⅲ a 層	黒 褐 色	粘土粗く長石多い。後期。	22	Ⅲ a 層	明 褐 色	長石、雲母が多い。
11	Ⅲ a 層	暗 褐 色	長石、雲母を混入。半截竹管文。	23	耕作土下	明 褐 色	長石、砂礫を混入。
12	Ⅲ B 層	明 褐 色	長石を含む。赤色塗料。				

(作成 早川 保子)

大 畑 遺 跡 VII

—平成4年度緊急発掘調査報告書—

1993年3月25日

編集 静岡県袋井市新屋1-1-1
 発行 袋井市教育委員会 ©
 TEL 0538-43-2111

印刷 浜松市中沢町1-1
 株式会社 開 明 堂



(1) 遺跡遠景 (学校の奥の茶畑が遺跡)



(2) 調査風景 (北区)



(1) 北区完了写真(東より)



(2) 北区完了写真(南より)



(1) 南区完了写真(北より)



(2) 南区完了写真(部分)



(1) 南区土坑完掘写真



(2) 調査風景